



Title	広東活動記録（2019年2月24日～3月3日）
Author(s)	片山, 剛; 山本, 一
Citation	近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター. 2019, 9, p. 101-103
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/84921
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

(7) 広東活動記録 (2019 年 2 月 24 日～3 月 3 日)

片山剛・山本一

2019年2月24日（日曜）

関空発、14時00分のCZ390（中国南方航空）で、片山剛（大阪大学名誉教授）、山本一（立命館大学講師）の2名が広州へ向かう。当初の予定では、高要市の金東圍で4年前の実地調査を継続するはずであったが、陳忠烈氏（広東省社会科学院）からの連絡で、現在は外国人による農村調査が困難とのことで、広州の史料収蔵機関での文献調査に切り替えて実施するものである。広州白雲空港で、広州大学の呉水田副教授の出迎えを受け、同氏の自家用車で宿泊先の麗柏国際酒店へ向い、7時すぎにチェックインしたあと、呉氏と会食する。

2月25日（月曜）

午前9時に広東省檔案館前で陳忠烈氏と待ち合わせ、檔案館で史料収集を開始。片山は、4年前に入力完了しなかった、「高要騰江、金溪第八区兩個鄉田界爭執情況」（全宗号3／目錄号3／案卷号122。マイクロフィルム＝「縮微」）を請求し、入力を開始する。山本は、民国期の金東圍における「更夫」の如き存在が、高要県の他の地域にも存在するかについて関連資料を探索するとともに、民国期の広東で水利関係の事業を担った圍董会に関する資料を探索した。夕刻に檔案館前で陳氏と別れる。

2月26日（火曜）

午前9時、同じく省檔案館前で陳忠烈氏と待ち合わせ、檔案館において、片山は昨日の作業を継続。マイクロを複写するには、大阪大学の「意見書」が必要とのことで、複写はあきらめる。山本は広東省民政庁関係の檔案目錄を調査するなかで、「更谷（更穀）」関係の檔案が存在することを確認した。

昼は暨南大学に向い、劉正剛教授（中国文化史籍研究所の所長）の招待で、暨南大学で昼食。陳忠烈、劉正剛、王桃（暨南學報の副編審。女性）、片山、山本の5名で会食。

昼食後は広東省立中山図書館へ行き、片山単著を倪俊明館長に贈呈。片山は順徳県の方志を閲覧。山本は民国期の『広東省政府公報』から日中戦争後の建築物の処理に関わる記載を調査した。夕刻、「農講所」の地下鉄駅前で陳氏と別れる。

2月27日（水曜）

午前9時から省檔案館にて、片山は昨日の作業を継続。山本は広東省民政庁関係の檔案目錄を調査し、圍董会に関する資料を探索・閲覧した。午後省檔案館で作業を継続。夕刻の帰り際に、侯彦伯氏から声をかけられる（上海交通大学の張志雲氏の同居人だった若手研究者。台湾の政治大学で博士号取得。上海で資料収集をしていたが、現在は中山大学歴史学系で、濱下武志氏のもとで特聘副研究員）。

2月28日（木曜）

省檔案館で作業を継続。片山は解読できない文字を除き、ほぼ入力を完了した。山本は
囲董会関係の資料を閲覧するとともに、関連資料の目録整理を完了した。夕食は、前日に
再会した侯彦伯氏と会食。

3月1日（金曜）

午前中は、木曜日までに収集した資料の整理を行う。午後は、広州近辺農村の参観のため、
呉水田氏がクルマを出して案内してくれた。陳忠烈氏も同行し、説明役を買って出
てくれた。最初に、仏山市順徳区杏壇鎮の水郷景観を残す逢簡村を、つぎに同じく沙田地
帯の水郷景観を残す広州市南沙区東涌鎮の大穩村を参観した。夕食は、呉水田・陳忠烈両
氏と会食した。

3月2日（土曜）

午前は、木曜日までに収集した資料の整理を行い、今後の課題を模索するとともに、ニ
ューズレター9号の原稿を執筆する。昼食は、ホテルのレストランで陳忠烈氏と会食し、広
州における学界状況についての情報を得る。午後は午前と同じく、収集した資料の整理や
ニューズレター9号の原稿執筆を進める。夜、片山は呉水田氏の家族と会食（石牌橋の西貝
なる内蒙古料理店）。山本は、留学のために広東外語外貿大学に到着したばかりの立命館大
学文学部「キャンパスアジア・プログラム」の学生と会食する。

3月3日（日曜）

広州白雲空港午前8時45分発 CZ389 便にて関空帰着。